

令和3年度 学校研究 ～今年度の取り組みとまとめ～

今年度の各学部・舎での取り組み、研究から得られた成果や課題等について、ポスターにまとめ、掲示しました。その中から、それぞれの成果と課題についてご紹介します。

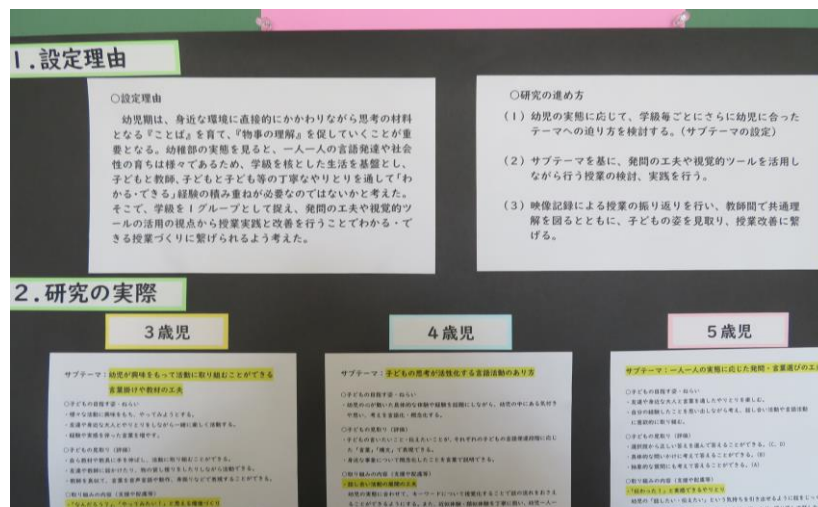
1. 幼稚部テーマ「幼児一人一人の言語発達や社会性の育ちに合わせた、わかる・できる授業のあり方について」

【成果】

- ・身近な素材を使った感覚的な遊びや好きな絵本等を取り上げることで、楽しい雰囲気の中で自ら教材に手を伸ばしたり、動物の動きを動作で表現して楽しんだりする等、楽しみながら経験を拡げることができた。
- ・近似体験・類似体験を丁寧に扱い、幼児一人一人の思考の流れに沿った話し合い活動となるよう話の方向付けを行ったり、話題の土台となるキーワードについて視覚化する支援したりすることが言葉を捉える手がかりとなる有効な手立てとなった。
- ・何についてどのように考え、表現すればよいか整理する支援を行ったことで、幼児自身が捉えるべき言葉が焦点化され、手話や身振り、音声言語での表現や物事の理解へと繋がり、一人一人のコミュニケーションモードでやりとりする姿が見られるようになった。

【課題】

- ・同年齢であっても幼児の実態に応じて、指文字や手話等で日本語の音情報を正しく掴めるように指導・支援をしていくことが重要である。
- ・より確かなやりとりをできるように語彙を拡充し、物事を言葉で理解していく力を育てていく必要がある。



幼稚部ポスター発表<研究の実際>より

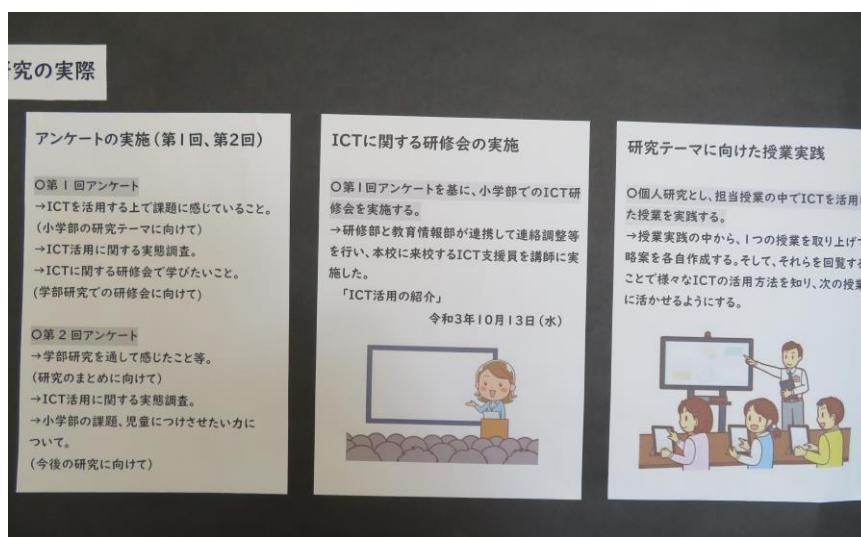
2. 小学部テーマ「児童の言語力を高め、主体的に思考する力をはぐくむ授業実践は
どうあればよいか ～ICT機器を活用した授業を通して～」

【成果】

- ・児童が、ICT機器の操作に興味をもち、意欲的に学習に取り組む、自分で考える、発言する姿が見られた。
- ・ICTを活用した視覚教材の提示は、言葉での説明だけではその意味をイメージするのが難しい児童にとって、思考補助の1つとなることが分かった。

【課題】

- ・ICT活用に関する児童の知識・技能について、実態を整理する必要がある。
- ・ICTを活用した授業の中で言語力を高め、主体的に思考する力をはぐくむためには、「児童の言語力を高めるための指導はどうあるべきか」や、「主体的に思考する力をはぐくむための指導はどうあるべきか」について、教師自らの考えを深める必要がある。



小学部ポスター発表<研究の実際>より

3. 中学部テーマ「一人一人の言語力を高め、主体的に思考する力を育む授業づくり
～効果的な指導を目指したICT機器の活用～」

【成果】

- ・ICT機器の活用により、生徒たちが意欲的に授業に取り組む様子が見られ、学習に対する意欲や自信にもつなげることができた。

- ・生徒は、自分に合った進捗で学習を進めることができ、教師は、生徒の思考の流れやつまづきをすぐに把握することができ、探求的課題解決に向かわせることができると考える。
- ・協働学習のICT機器の活用では、生徒が自分の考えや意見を積極的に発表することにつながった。また、全員の意見をすぐに共有することが容易だったと考える。
- ・基本的な操作方法や授業の中でのICT機器の活用方法を研修したことで、授業に取り入れる先生が増え、中学部教員全体のボトムアップにつながった。

【課題】

- ・ICT機器の活用場面が増えたことで、生徒たちも操作に慣れ、勝手に進めてしまったり、夢中になってしまったりする場面も見られた。授業の中でのルールの見直しや徹底が必要。
- ・授業のねらいに近づけるように、学部全体で研修を行い、ICT機器の効果的な活用を模索していくことが必要。



中学部ポスター発表<研究の実際>より

4. 高等部テーマ「授業におけるICTの効果的な活用について」

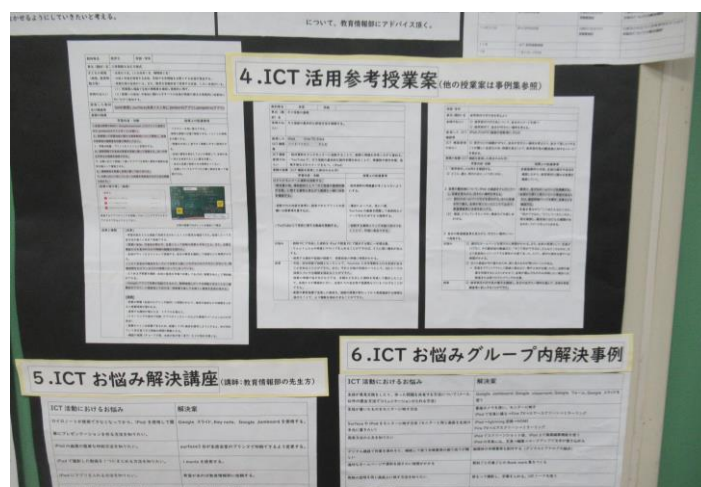
【成果】

- ・全ての教員のICTを活用した授業案を検討した。また、検討後も残った課題については、教育情報部教員から解決方法についての講座を受けたことで、80%程の教員が、授業でのICT活用を進めることができた。

- ・授業でICT機器を使用することでの生徒の様子の変化も、90%程の先生方が感じており、具体的には「授業の理解度が上がった」「授業への興味・関心が高まった」という変化を感じることができた。

【課題】

- ・一方で、40%程の教員が、ICT活用において課題が残っていると感じているので、今後も、生徒の学びに活かせるように、ICT活用の模索を学部全体で行ってきたい。



高等部ポスター発表<研究の実際>より

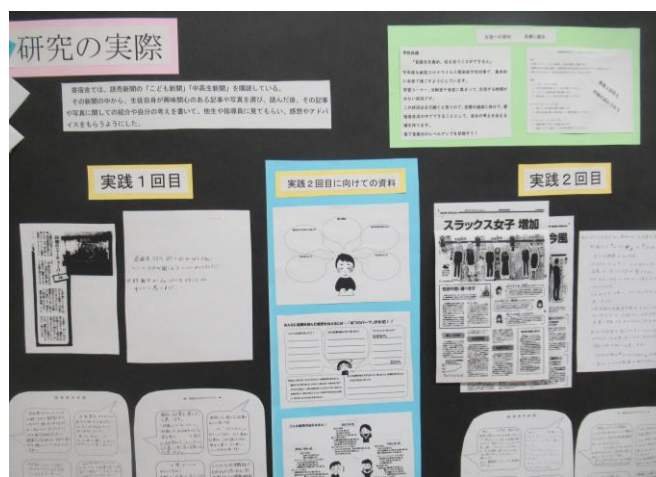
5. 寄宿舍テーマ「言語力の向上を目指した取り組み」

【成果】

- ・「こども新聞」「中高生新聞」を活用し、記事に関する紹介や自分の考えを書く機会として実践を2回実施したことで、新聞を読む、伝える内容を考える、考えたことを伝えるなど、1回目の反省を踏まえたり経験から要領を得たりし、言語力の向上につながる取り組みをすることができた。
- ・新聞を活用したことは、最初は興味のなかった生徒も新聞を見る機会ができ、新聞に触れて興味関心を持つようになり、新しい言葉を見つけたり分からない言葉の意味を調べたり、文字に触れる機会を作ることができた。
- ・他生が書いたものに感想を書くようにしたことは、自分の思いを書くことが難しい生徒も、他生に書くことにはとても積極的に楽しく取り組み、実践以外でも文章を書く経験の1つとすることができた。

【課題】

- 行事などもあり生徒の多忙化を考えると実践は2回が妥当であったが、言語力の向上は積み重ねが大事だと考えるため、日々の生活の中での支援が必要である。
- 今回の取り組みは、一人一人に対し丁寧に支援することはできたが、異年齢での集団生活も寄宿舍の良さの1つと思うため、今後も感染症対策を講じながら研究の方法を検討することが必要である。



寄宿舍ポスター発表<研究の実際>より